

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.03) 平成22年度追補:28-29.

ICUにおける新人看護職員研究の現状と課題

上北真理、阿部由希子

ICUにおける 新人看護職員研修 の現状と課題

旭川医科大学病院 集中治療部ナースステーション

上北 真理 阿部 由希子

はじめに

- ◎ 当院では現行の集合研修やOJTに加え、部署ごとにOff-JTによる技術研修の機会を設けている。技術研修は必修の看護技術に加え、部署ごとに必要な研修を追加し、優先度の高い順に実施している。しかし、ICUでは早期に習得しなければならない知識や看護技術が多数あり、新卒者にとって過密スケジュールとなっている事が危惧された。そこで、新卒者が過度な負担を感じることなく、効果的に看護技術を習得できるよう、現状の評価と課題の明確化が必要と考えた。

対象・方法

- ◎ 対象 今年度ICUに配属された新卒看護師4名
- ◎ 方法
 - ①看護技術チェックリストを用いて、4～6月までに技術研修で学習した15項目について習得状況を明らかにする。
 - ②面接を行ない、研修に対する受け止めについて調査する

結果①看護技術の習得状況

研修回数	15回(全38回)	
実践での経験率(%) (技術研修後)	90%	
理解度(%)	十分理解できた 37.5%	
	理解できた 62.5%	
技術の 習得度(%)	自己	65.8%
	他者	64.6%

結果①看護技術の習得状況

全員実践で経験できた技術	全員実践で経験できなかった技術
清拭	洗髪
V/S測定	排泄介助
動脈ラインからの採血	} 習得度が高い技術
挿管患者の口腔ケア	
防護用具の装着	
体位変換	

結果②研修に対する受け止め

研修方法	技術研修で流れや手順を聞くことで、実践場面での焦りや不安が軽減する。講義後に実技を行うため、体で覚えて印象に残る。全員が同じ内容の指導を受けるため、手技の統一を図ることができる。
研修時期 開催頻度	習得する技術が多く、覚えていないこともある。技術項目が多く大変なため、今よりも研修のスケジュールが詰まってくると、振り返りが間に合わなくなる。業務を通して経験したことがあっても、研修で振り返ることができるため、研修の実施時期に関しては特に気にならない。ケアを通して気付くことも多いため、OJTと平行して実施してほしい。

結果②研修に対する受け止め

研修の活用度	学んだことを基に実践できる、注意点がとても印象に残っている。 研修制度があることで、未経験の技術を実施できるよう促してもらっている。
その他	勤務時間内で研修を行うため、業務が忙しい時に研修で抜けるのは気が引ける。 研修資料を事前配布されると、研修の時に疑問を解決できてよい。 評価者によって細かい点までひとつひとつ確認する場合とそうでない場合があるため、評価基準があるとよいと思う。

考察①

実践できた技術 ＝経験頻度の高い技術	
習得度が 高くない 技術	清拭
	V/S測定
	動脈ラインからの採血
習得度が 高い 技術	挿管患者の 口腔ケア
	防護用具の装着
	体位変換

アセスメントに基づく
実施の困難さ



手技・知識の達成時期
を分けて評価

考察②

- ◎ OJTとOff-JTの同時進行
 - ◎ 講義と実技を併せた研修
 - ◎ 研修の開催時期
- } 現行のままで
実施が可能
- ◎ 研修の開催頻度→自己学習のためには開催
頻度を減らす必要がある
 - ◎ 技術評価の方法→評価基準の整備や評価方法
の周知が必要

結語

- ◎ OJTを通してアセスメント能力の育成を行う
ために、現行よりも技術習得期間の延長が必要
である。
- ◎ 研修方法は、新卒者にとって印象に残る効果
的な研修となっている。
- ◎ 新卒者にとって過度な負担となっていないが、
自己学習の時間を考慮し、開催頻度は現行より
少なくする必要がある。
- ◎ 詳細な評価基準の整備と、技術指導を担当す
るスタッフへの評価方法の周知が必要である。